

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4492100013		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	大分県東国東郡姫島村1658番地の1		
自己評価作成日	平成24年5月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年6月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多くの高齢者の方々は、住み慣れた村で家族や友人に囲まれて暮らすことを願っています。ひだまりでは、認知症高齢者の方が生まれ育った、慣れ親しんだ環境のもとで自由でつろいだ生活をする事により、言葉数が増えたり表情が明るくなったり落ち着きを取り戻すなど認知症の進行を遅くする事を支援し認知症になっても姫島から出ていけなくて良い「ひだまり」があるからと地域住民に安心していただくホーム作りを目指しています。

開かれたホーム作りのため、家族、近隣・地域住民、保育所、幼稚園、近所の子供たちをプライベートに配慮しつつ日中時間に関係なく受け入れをしています。

認知症になっても生まれた島にいてよかったと思われるように、地域の催し事に積極的に参加し、今までの生活の延長を楽しみながら交流を図っています。

毎月1回の職員会議において、利用者のケアカンファレンスを行いチームで介護計画を作成して共通認識のもと実践につないでいます又、会議後、勉強会を行い資質向上を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・姫島に住む人たちは、島の文化や伝統を大切に守って暮らしており、グループホームの理念はそれを担ってきた人として高齢者の大切さをうたっている。
- ・利用者も職員も姫島出身で、以前から暮らしぶりや生活背景など、お互いを知る中で、なじみの関係が築かれている。
- ・近所の人から、野菜や手作りの差し入れをもらったり、子供たちが遊びに来るなど、地域に開かれた事業所で、利用者も庭で野菜を育てたり、散歩に出かけるなど、ゆったりと日々を過ごしている。
- ・職員が積極的に意見を出し合いながら、日々のケアに取り組んでいる。
- ・村内の医療、福祉施設、村の行政担当者と連携を図り、協力体制を築いている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業開始前「理念」について研修に行き理念の意義について理解し日々の介護に実践できるように取り組んできた。	住み慣れた姫島で、本人の意思を尊重した暮らし、家族や地域との結びつきを大切にするという理念を開設時に作成している。職員は毎日理念の復唱をおこない、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、祭り、おさかな祭り、エビ祭りなどで交流している。お誕生日会には、地区、近隣の方たちが見に来て一緒に楽しんでいる。保育所の園児も遊び場としていつでも受け入れて交流を大切にしています。	近所の人から野菜の差し入れをもらったり、子供たちが遊びにやってくる。町内の清掃に職員が参加するなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事内容等を運営推進会議において報告し又、独居認知症の方の現状や暮らしぶりを協議し早期にサービスにつなげるよう支援しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において事業所の行事や現状報告を行い、会議で取り上げられた意見を職員会議で報告し改善、実践に活かしている。	運営推進会議では、事業所の取り組み状況の報告をおこない、お接待への招待など地域交流の情報を参加者からもらっている。また、地域で暮らす高齢者へのアドバイスや介護の情報発信をおこなっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みは運営推進会議において情報提供と共有を図っている。問題、相談事については、介護保険担当者が親切に対応してくれている。	行政担当者や日頃から連絡を密に取り、相談にのってもらったりアドバイスをもらっている。図書館職員が読み聞かせで使用する本を届けてくれたり、診療所や介護施設など村営の様々な機関と協力関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを使用し人権の尊重・尊厳を守れるよう拘束をしないケアに取り組んでいます。	職員会議の中で、身体拘束に関する研修をおこない、マニュアルを作成している。拘束経験のある利用者を受け入れ、職員全体で拘束しないケアに取り組み、症状の改善につながった事例がある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の身体的・心理的・性的・経済的等について職員会議やミーティング等で研修し早期発見や事前防止に努めている。		

事業者名: グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要な利用者が現在いないので他の職員はまだ研修をしていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族や入所者に対して丁寧に説明している。状態の変化により契約解除に至る場合は、本人、家族と相談し、その後の対応方針も含めて納得が得られるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、入金時や、面会等で常に問いかけ、何でも気やすく言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見については、毎朝のミーティングで話し合い早期解決を図っている。	毎日のように訪問してくれる家族も多く、家族が意見をだしやすい雰囲気づくりに配慮している。 出された意見はその都度話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で運営状況の説明を行い、職員の意見や要望を聞くと共に提案には、全員で話し合っ決めていく。	本の読み聞かせや、季節により入浴回数を変えるなど、職員からの提案や意見はその都度検討し、運営に反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も現場職務についており職員の業務や悩みを把握している。 職員の資格習得に向けた支援を行い研修に行きやすい環境作りをしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がより高い知識・技術・資格確保のための研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの研修を行いケアに生かしている。又他の事業所との交流を通じて、相談・親睦を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の希望や要望を聞き職員一人一人が本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	始めて相談に訪れた際に必ずご家族の困りごと、要望を伺うことにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を把握し、お試し入所など可能な限りの対応を行い必要なサービスにつなげている。場合によっては、他の事業所のサービスにつなげるなどしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員という意識の元、お互いが協働しながら生活できるように配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回のお楽しみ会には、家族の参加を求め本人と家族、職員で交流を図る機会を作ると共に日々の暮らしの出来事や情報の報告・共有に努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や地域の方が気軽に立ち寄れるオープンな環境作りを心がけています。生家や自宅に立ち寄れるドライブを計画し近所の方との交流が出来るような支援をしています。	以前住んでいた所や馴染みの場所に出かけ、継続的に馴染みの人と交流できるよう、支援をおこなっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた利用者のその後についての情報を家族と情報交換し経過を見守っている。 他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプラン、支援状況を提供し連携を心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や行動や表情から本人の希望や意向の把握に努め希望に沿った暮らしが出来るように支援しています。	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 職員はケア会議の中で、その人の思いや意向を共有しながら、思いに添った支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴や生活環境等を聞き取り把握している。入所中に家族との話し合いの中で情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握するとともに行動や話しぶりから本人の全体像を把握している。朝は、その日の状態を報告し1日をかけて本人への働きかけを含めて記録し全員で確認するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当を決めて課題とサービス内容を計画し全体で協議して介護計画に反映している。毎月全職員でカンファレンスを行い見直しを行い意見・要望を反映した介護計画を作成している。	月1回、ケア会議で一人ひとりの状況について見直しをおこなっている。 6か月ごとに本人、家族など関係者と話し合いながら現状に即して介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイル記録簿に食事・水分・排泄等、体温・血圧、入浴等日々の暮らしの様子や本人の言葉やエピソードを記録している。毎朝のミーティングで確認し情報共有を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、要望に対して柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター等と連携を密にし支援に関する情報交換、協力関係を築いている。役場図書館を利用し役場職員が読み聞かせ用の絵本を選んで定期的に届けてくれている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である診療所の医師・看護師が月に1回定期的に訪問してくれている。突発的な受診や継続した治療には、基本的には家族同行としているが不可能時は職員が代行している。受診前後には必ず家族に連絡を行っている。	協力医療機関である村営の診療所と運営推進会議や定期的な訪問診療など、連携を図っている。受診に際して、本人や家族、医療機関と情報の共有を図りながら受診の支援をおこなっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者の体調変化の気づきを看護師・管理職に報告し適切な医療が受けられる体制を作っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の日常生活・症状経過を報告し、2～3日に1回見舞うようにしている。家族・Drと情報交換をしながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所が対応できる最大のケアについて説明を行っている。医療福祉関係者とも連携を図り、病気になったら診療所へ、寝たきりになったら姫寿苑に紹介等出来る範囲で地元で治療できるように取り組んでいる。	入居時に村内の医療機関、福祉施設と連携を図りながら、事業所でできるケアについて説明している。本人や家族と話し合いを繰り返し、意思確認書を作成している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急対応についてマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・非常災害マニュアルを作成し共有している。	防災・災害マニュアルは作成されているが、避難訓練や備蓄はおこなわれていない。	いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう、地域の協力のもと、避難訓練を実施することが望ましい。災害時の備蓄について検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議において個人の尊厳・プライバシー保護について具体的に話し合い取り組んでいる。	一人ひとりの人格を尊重することや誇りを損ねない対応について研修をおこなっている。日々のケアの中で、気になることはその都度、注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや支援を答えやすく選びやすいような働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが時間に区切った過ごし方はしていない。利用者の状態によりその日、その日でスケジュールが違い柔軟な生活を送っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれについてはマニキュア、乳液位しかできていないが身だしなみには整容、ひげ、着衣、食べこぼし等配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは基本的には献立していますが、急な魚の差し入れや野菜の差し入れで変更となります。島独特の昔ながらのメニューも取り入れ食事が楽しいものになるよう支援しています。	それぞれの力を活かして、利用者と職員と一緒に野菜の下ごしらえや準備、食事、片付けを一緒に行っている。利用者の希望に添って、郷土料理やおやつ作りを楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉施設の栄養士の指導をいただきながら、献立、減塩食等支援している。一人一人の体調と1日の摂取量を把握している。食事量や形態も個々に合わせて食べやすいようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後は洗面所で歯磨きを行い行けない方は歯磨きケアを行い肺炎防止に努めている。口腔体操を取り入れ嚥下機能のリハビリを行っている。		

事業者名: グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導しトイレでの排泄が出来るように支援している。	一人ひとりのタイミングに合わせた声かけや誘導で、日中も紙おむつだった人がトイレで排泄できるようになるなど、自立に向けた支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には、芋や繊維質の多い食材を提供している。又腸の働きを良くするためにラジオ体操や腹部運動を行い水分量を把握して水分が取れない方にはゼリーなどで調整している。服薬で排便コントロールする場合もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴時間を設定している。入浴拒否をする方はその日の状態で入らなかったり順番を変更したりする。	夏は毎日、冬は1日おきの入浴となっている。 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しみとなるよう支援している。入浴を嫌がる人も週3回以上入浴するよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活スペースで午睡したり、夜間良く眠れるように、日中の活動に配慮している。眠剤を飲まれている方は睡眠状況を把握している。不安が強く眠れない方には、添い寝をする場合もある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり本人の状態変化が見られるときは、連絡帳で全職員が把握し観察・記録を行い協力医療機関と連携を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔好きだった趣味や踊りなどを発揮してもらえるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態や希望で天気の良い日はいつでも外出できるように支援しています。住んでいた地区をドライブしたり、車いすの方もおやつを持って散歩にでかけ気分転換を図っています。	食材の買い物、公園やお宮への散歩を日課にしている。 島内をドライブし、以前住んでいた家に行き、近所の人と交流するなどの支援を日常におこなっている。	

事業者名: グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常にお金のやり取りはしていません。必要な品物は家族にお願いしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いを出しています。電話は、いつでもかけられるようにしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくさわやかな空間の配慮をしています。壁面には自分たちが作成した手作りのはり絵等季節に応じて変えています。	柔らかな光の入る大きな窓から、姫島のシンボルである矢筈山の風景を楽しむことができる。畳コーナーやソファを配置し、思い思いの場所で、ゆったりと過ごせる工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬はこたつで気の合う入居者同士がくつろいだりソファでくつろげるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真などを持ち込み、居心地良くしている。	布団や毛布を自宅より持参している。家族からの感謝状を飾っている部屋もあるが、なじみの物は少なく、その人らしさが見えにくい。	本人の意向を確認しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく、安心して休める部屋づくりの工夫を期待したい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは昔の呼び名で「便所」と解るように表示したり、本人が出来る事は可能な限り実施できるようにしている。		